

## 平成 29 年度第 7 回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（日高会場）

- 1 日時・会場 平成 29 年度 12 月 18 日（月）13:30～16:30 日高川交流センター
- 2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者  
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター

合計 49 名

### 3 内 容

<p>◆講演「コミュニティ・スクールとは」 ～ 地域に開かれた学校から地域とともにある学校へ～ 文部科学省CSマイスター 大分県大分大学COC +推進機構統括コーディネーター 梶原 敏明 氏</p>
---

#### ○コミュニティ・スクール導入の背景

- ①予測不可能な将来 ②地方消滅の危機  
→ 「キャリア教育」と「キャリア形成」の視点を持った教育が必要
- ③少子化 ④地域・家庭の教育力低下  
→ 異年齢交流・地域交流によって、「社会性の基礎」を教育することが必要
- ⑤学校と地域の認識の相違 ⑥学校と地域の情報交換の機会がない  
→ 「社会に開かれた教育課程」の理念が必要



#### ○地域とともにある学校への転換

- ・「学校と地域が目標・課題を共有する」ことにより相互補完
- ・コミュニティ・スクールをツールとして行う、「学校づくり・地域づくり」
- ・「ガラス張り」の学校経営から「網戸」の学校経営へ

#### ○コミュニティ・スクールの円滑な運営

- ・学校と地域が相互補完できるための「熟議」
- ・学級経営＝学校経営＝コミュニティ・スクール
- ・『目標の共有』→『参画』→『当事者意識』

#### ○コミュニティ・スクールへの期待

- ・学校……学問を学ぶ
- ・家庭……生活習慣や心の持ち方を学ぶ
- ・地域……地域や社会のルールを学ぶ

<p>◆実践発表（日高川町の取組） 「コミュニティ・スクールの導入に向けて」 日高川町教育委員会 教育課 社会教育主事 林 浩史 氏</p>
--

## ○学校運営協議会設置推進委員会

- ・丹生地区と美山地区
- ・区長会長、PTA 会長、教育委員、社会教育委員、青少年育成町民会議委員、保育所保護者会長、学校長等
- ・関係小中学校長への取組説明 (H29. 6 月)
- ・第 1 回会議 (H29. 8 月)  
委員長選出・制度説明・先進地取組事例紹介・検討事項等
- ・先進地 (福岡県春日市) 視察 (H29. 10 月)
- ・第 2 回会議 (H29. 11 月)  
講演・グループワーク

## ○今後の取組

- ・第 3 回会議 (H30. 2 月)
- ・学校運営協議会規則制定 (H30. 3 月)
- ・関係学校長から委員推薦 (H30. 5 月)
- ・教育委員会から委員任命 (H30. 6 月)



## ◆グループワーク & 質問コーナー

### ○学校と地域の目標を決める際に、どのようにすりあわせていくのか。

- ・学校長が年度当初の各自治会に出席し、学校の状況を説明する時間を頂いた。
- ・学校長と地域コーディネーターが協議した。

### ○学校の年間行事計画をどのようにマネジメントすればよいか。

- ・2月の学校運営協議会で、次年度の計画を協議していくとよい。

## 4 参加者の声 (アンケートより)

(小中学校教職員)

- ・実際の事務手続き的な事まで話題にのぼり、立ち上げに向けて流れを理解した。コミュニティスクールは以前から必要と感じていたので、参加できて有意義であった。

(県立学校教職員)

- ・梶原先生のご講演の中でコミュニティスクールの運営は学級経営と同様であると言われたので教職員に理解させるための良いヒントとなった。また、コミュニティスクールの協議会メンバー選定についても「子どものために」を中心に各校が動いていることが共感できた。

(学校運営協議会委員)

- ・講演、発表共にとてもわかりやすく、CSの組織づくり・取組事例等がよく理解できました。私自身まだまだ勉強不足で、わからない事も多いのですが、「地域と共にある学校づくり」だから地域・学校が熟議の上、“これだったらこれから先も続けていけるな”と思われるような活動 (子供たちが中心) から始めていけば、成果や課題が見えて、修正しながらつながりが広がってくるのではと考えています。